

高野山の歴史



弘法大師空海は20歳で出家し、31歳の延暦23年(804)に唐に渡り、都の長安で恵果阿闍梨から真言宗の教えを受け継ぎ、2年後の大同元年(806)に帰朝した。弘仁元年(810)に嵯峨天皇の許可を受け、真言密教を日本に広めた。その後、真言密教を広める根本道場を開く場所を求めて日本各地を巡っている中で、大和国宇智郡(奈良県五條市付近)で白黒2匹の犬を連れた狩場明神の化身と出会った。その白黒2匹の犬に案内されて高野山に登る途中、丹生明神が現れ土地を献上すると告げられた。弘仁7年(816)に嵯峨天皇から許可を賜りこの土地を真言密教の根本道場と定め堂塔を建て、伽藍を造られた。

弘法大師は62歳の承和2年(835)3月21日、人々を救うため奥之院に永遠の瞑想に入れ(御入定)、即身成仏を成し遂げられた。現在は伽藍と奥之院の両壇を中核に、総本山金剛峯寺を始め117カ寺の寺院があり、神秘的な霊場を形成している。

壇上伽藍

弘法大師空海が真言密教の根本道場として弘仁7年(816)に高野山を開創した際、最初に開かれたのが壇上伽藍である。根本大塔や金堂をはじめ19の堂塔が建ち並び、そのほとんどが重要文化財に指定されている。弘仁10年(819)に御社と金堂が創建されて以降、根本大塔をはじめとした堂塔が建立されていき、概ね鎌倉時代頃には現在同様の景観が整った。なかでも根本大塔建立は大事業であり、弘法大師と真然大徳の二代にわたり造営を行い完成した。壇上伽藍の堂塔は焼失と再建を繰り返しており、現在の建造物の大半は幕末頃に再建されたものである。



御影堂《国指定重要文化財》
弘法大師空海の持仏堂を起源とし、後に真如親王筆の大師の御影を祀ったことから御影堂と呼ばれるようになった。現在の建物は、嘉永元年(1847)に再建された。

大門

高野山の総門。現在の建物は宝永2年(1705)に再建されたものである。高さ25m、五間三戸二階二重門で、両脇に置かれる金剛力士像は、江戸時代の仏師康意、運長による大作であり、和歌山県指定文化財となっている。



根本大塔《国指定重要文化財》
昭和12年に再建された総高は約48.5mに及ぶ巨大な五間多宝塔。金堂同様、耐震・耐火性能のため、鉄骨鉄筋コンクリート造で、躯体に木材を貼り付けて造り、当時最新の建設技術により建てられている。礎石の実測や文献に基づく考察により創建時の大塔の再現を目指した先進的な復元建物である。

金剛峯寺本坊

高野山真言宗を統括する総本山寺院である金剛峯寺の本坊の建造物群。青巖寺と興山寺が明治2年に合併し総本山金剛峯寺とした。本坊の中核となる大主殿及び奥書院は、万延元年(1860)の火災ののち、文久2年(1862)に再建されたものである。客殿と庫裏及び書院が接続された複合建築で、内部は高野山諸寺院共通の独特の間取となる。総本山寺院に相応しい破格の規模と威容を誇る。



女人堂

高野山が女人禁制であった頃、女性は女人道より内側への入山が許されず、高野山に参詣した女性の籠り堂として女人堂が置かれていた。女人堂は、高野七口と呼ばれる高野山への7つの登山道の終着点それぞれに置かれていたが、現在はこの不動坂口の女人堂のみが残る。

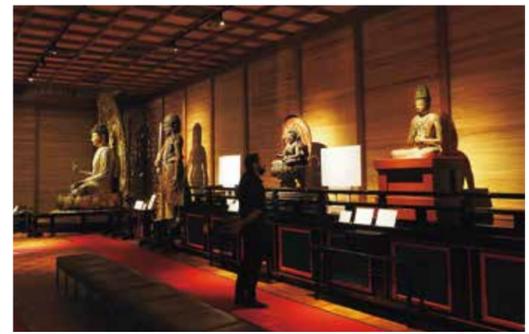
徳川家霊台

大徳院の境内に建てられた徳川家康と秀忠の位牌堂で、右が家康霊屋、左が秀忠霊屋である。寛永10年(1633)頃から造営が始まり、寛永20年(1643)に落慶法要が行われた。建物外面には各所にふんだんに彫刻を嵌め込み、内部は、金箔貼りの壁面に彩色は施され、厨子は金蒔絵や大量の飾り金具が施され、黄金色に輝く空間となっている。



高野山霊宝館

高野山の貴重な文化財を保存・公開する施設として、大正10年(1921)に開館した。現在、国宝21件、重要文化財148件、県指定文化財17件の合計186件・約28千点をはじめ、未指定文化財を含めると10万点以上に及ぶ膨大な文化財を収蔵している。また、高野山霊宝館の建物自体が国の登録有形文化財となっている。



奥之院

一の橋から弘法大師御廟までの約2kmの参道の両側には、樹齢数百年の杉の大樹とともに数十万基ともいわれる墓石や供養塔、慰霊碑が建ち並び、歴史的著名人や大名の墓石や供養塔も多く見られる。老杉から差す神々しい光に浮かび上がる苔むした墓石群は永い歴史を感じさせる。

弘法大師御廟

大師信仰の中心聖地。高野三山(転軸山、楊柳山、摩尼山)に囲まれ、前面に玉川の清流が流れた山裾にある御廟。弘法大師は、この地を入定留身の地と定め、承和2年(835)3月15日から禪定に入れ、21日には結跏趺坐して御入定された。現在、宝形造檜皮葺きの御廟が建てられている。御入定後の延喜21年(921)10月22日、醍醐天皇から「弘法大師」号を贈られるとともに、檜皮色の香衣一着を御下賜になった。それ以来、現在に至るまで毎年3月21日には、御衣替の儀式が行われている。



生身供の様子(午前6:00、10:30)

町石道



空
風
火
水
地

五輪塔

麓の慈尊院から高野山へ通じる180町(約20km)の参詣道を町石道という。町石道には、1町(約109m)ごと五輪塔形の町石が建てられている。この町石は、鎌倉時代に覚きょう上人の発願により、天皇、公家、武家、庶民に至るまで広く寄進を得て、20年の歳月をかけ、弘安8年(1285)に完成した。仏教では、世界は地・水・火・風・空の5つの要素により構成されるとされる。この5大要素を方形・円形・三角形・半月・宝珠にかたどったものが五輪塔であり、それぞれの部分に五大要素を表す梵字[地(ア)・水(バ)・火(ラ)・風(カ)・空(キヤ)]が刻まれている。奥之院参道には、多くの五輪塔形の石塔が建ち並んでいる。

体験

阿字観

真言宗における瞑想法の一つで、深くリラックスするために必要な姿勢や呼吸法などを組み合わせて瞑想を行う。



写経

般若心経をなぞって書き写す「写経」ができ、集中した清々しい心穏やかな時間を過ごすことができる。



授戒

十箇条の戒めの教え「菩薩十善戒」を阿闍梨という高僧から直接授かる儀式。暗闇の堂内で法語を通してわかりやすく教えを伝えてくれる。

体験場所
阿字観…金剛峯寺
写経…大師教会
授戒…大師教会

日程等については金剛峯寺ホームページをご確認ください。